オンラインコーチング研究第１５回　スイミングコーチの指導　水野加寿氏の場合

水泳指導で教育心理学の成果を利用しているケースを紹介します。

「教育心理学によるアメリカンクラブメソード 『心の豊かさ指導』ほめ指導」
　子どもは他の誰とも違うスイミングレッスン　1997年　水野加寿

学習の個別化の原則

1　子どもに肯定的な見方をする

2　子どもの多様さ、行動の原因の複雑さを知る

3　子どもを理解する技能をいくつか身につける

4　子どもの理解のレベルを知る

5　子どものつまずきと、つまずきの多様さを知る

6　子どもに適切な学習目標を明確にし、与える

7　指導者が自分の行動の意味と、その結果に気づく

8　能力の低いものにも成功の機会を与える

9　承認、賞賛を多用し、励ます

10　失敗した場合、その原因を子どものせいにする前に、指導の在り方を反省してみる

11　方法をかえる

12　成果をあせらない

13　それがいかに小さくても、子どもの成長を評価し、ともに喜ぶ

14　泳力の低いものへの指導者の関わりの意義を、担当グループの子ども全員に承認させる

(21page)

動機づけ（賞賛による動機づけ）

　認め、ほめることによる動機づけ、これは、最も一般的でかつ重要な動機づけの手段であり、重要なのは、それが開発的、促進的、持続的に作用するからでしょう。すなわち、それは相手を勇気づけ、自信を持たせ、積極的に取り組むように作用するからです。ほめられたことはいつまでも忘れないものであり、「叱るよりほめよ」とう言葉は、その意味で教育の重要な原則といえるでしょう。**よい指導者の条件はの1つは、子どもをどれだけ認め、ほめられるかにあると言えます。**

　しかし、指導の場では、叱ることはあっても、ほめることは意外に少なく難しいのが現状です。指導者はその場合**「ほめるところのない人間は、ひとりもいない」**という言葉の意味をかみしめる必要があるのです。(p23)